

指導教員が掲げたゴール



ディスカッション後の感想



所属 自然科学研究科

私は大学院で、2つのテーマで研究しています。まず1つ目のテーマでは、薬理活性を有する物質を作成している点から**3番(すべての人に健康と福祉を)**、新しい合成法の研究をしている点から**9番(産業と技術革新の基盤を作ろう)**、廃棄物を極力低減したプロセスの開発を目指すという点から**12番(つくる責任 つかう責任)**に当てはまっている研究であると考えて、これまでの研究に取り組んでいました。2つ目のテーマでは、毒性および悪臭を放つ化合物を化学的に変換します。よってSDGsの**3番**、新しい技術開発という点から**9番**、環境に配慮した素材を使っていることから、**12番**に当てはまった研究だと言えます。

しかし今回のディスカッションで他の人の意見を聞くうちに、1つ目のテーマでは、有機ELなどの応用を期待される物質を合成している点から、SDGsの**7番目(エネルギーをみんなにそしてクリーンに)**の目標にも当てはまっているのではないかという点に気づくことができました。また2つ目のテーマは自然に放出しても問題ない材料を使用している点から、今後の応用次第では飲み水の浄化や、温室効果ガスであるメタンガスなども除去できる可能性があるので、SDGsの**6番(安全な水とトイレを世界中に)**や**13番(気候変動に具体的な対策を)**などにも合致しうる研究内容に変化する可能性があると感じられました。

今まで私は、自分の研究テーマがSDGsのどの達成目標に合致するかという点でしか考えてこなかったもので、別の目標を達成するためにテーマを発展させるという簡単なことに気付いていませんでした。今回のディスカッションは、SDGsとの関わりを広げるだけでなく、研究テーマの発展も期待できる、大変実りのある話し合いの場となりました。

指導教員が掲げたゴール



ディスカッション後の感想



所属 自然科学研究科

我々の研究室は、企業との共同研究や国家プロジェクトに参画し、よりよい建設材料の開発に役立つ研究を行っていることから、**9番「産業と技術革新の基盤をつくろう」**に当てはまると考えております。また、私のテーマでは、カーボンニュートラル(温室効果ガスの排出を実質ゼロにする)に向けた取組を行っているという点から**13番「気候変動に具体的な対策を」**にかかわっていることを意識しています。

他にSDGsに関連したことはないのかと議論を進めていくと、カーボンニュートラルという観点からみると9番や13番以外の目標の達成にも何らかの形で関わっているのではないかという意見が出ました。例えば、工業副産物を利用したセメントの材料設計を行っている学生からは、**11番「住み続けられるまちづくりを」**や**12番「つくる責任 つかう責任」**に関わっているという考えが出ました。また、脱炭素社会の実現で温暖化を抑制することで自然環境や生態系を守り、飢餓や水不足で苦しむ人を減らすという観点から**1番「貧困をなくそう」**や**2番「飢餓をゼロに」**も該当し、地球環境と現在と未来の人々の暮らしを守ることにつながるのではないかという考えもありました。

このことから、SDGsの17のゴールはそれぞれが影響し合っており、カーボンニュートラル実現に向けた我々の研究は多くの目標に関連していることに気づきました。

一見すると、関係していないような目標でもその関連を見出せたことから、自身の研究についてより多角的に見る必要を感じました。今後もSDGsとの関連を意識して研究を進めていきたいと思っております。